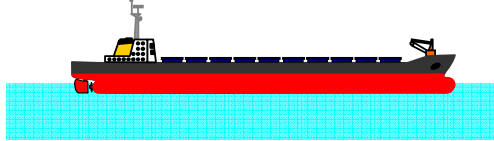


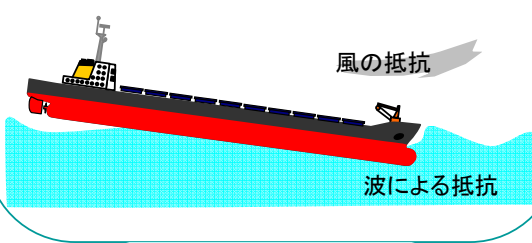
海の10モードプロジェクト

実海域性能の重要性

■ 波や風のない状態

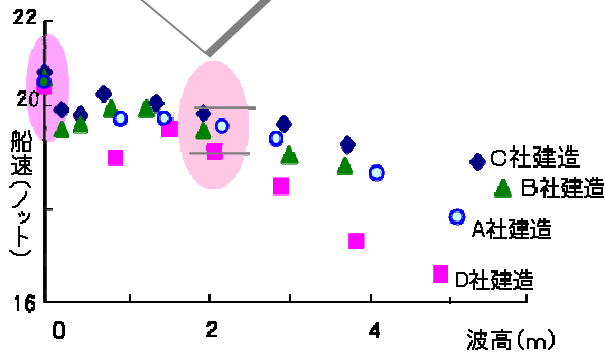


■ 実海域での航行(波や風の影響により、速力が低下)



実海域での船速低下の例(自動車運搬船)

北太平洋での平均的な波高でCO₂排出量で年間6,000トンの差(燃料消費量で1割弱)が発生



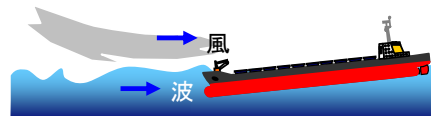
実海域性能評価手法の開発

- 開発期間: 平成20年度~22年度の3年間
- 国土交通省と環境省が連携
- (独)海上技術安全研究所が実施

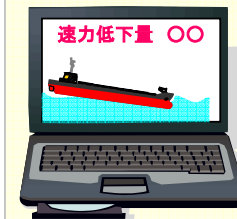
実海域性能評価手法の開発

航行モード

- 積み付け状態 → 満載状態
- 風・波の設定 → 10パターン(※)



水槽実験と、コンピュータシミュレーションにより評価



水槽実験

※ 5通りの風速・波高の組み合わせ × 2通りの風向・波向の組み合わせ = 計10パターン

- 関係機関の協力を得て、一般商船による実船試験を行い、実海域性能評価手法の有効性・信頼性を検証中

第三者認証システム

- 実海域性能評価手法のプロセスを基準化し、ガイドライン化
- これを公証する認証システムの開発